

# ICT が実現する、立命館守山、白熱教室！

立命館守山中学・高等学校 教諭 犬飼龍馬

inukai@mrc.ritsumeai.ac.jp

キーワード：反転学習、アクティブラーニング、国語

## 1. 従来の課題

私は国語の教員である。これまで、私の授業で生徒が熱心に予習をしてくることは、ほとんどなかった。せいぜい、語句の意味調べ、漢字の練習くらいである。

そしていざ授業が始まれば、私が自分の読解を熱心にしゃべり、あるいは国語を好む一部の生徒との問答に興じ、他大多数の生徒はそれを黙ってノートに写すだけ。多くの生徒がそんな受動的な学びしかできない、私の授業は駄目な授業だった。

## 2. 目的・目標

今回報告する授業の目的・目標は二つあった。一つは、子どもたちの学習を受動的なものから、能動的なものに変えること。もう一つは、子どもたちが互いの考察を真剣に学び合う、学びの協働体を作り上げることである。

## 3. 実践内容

### 3.1 実践の概要

この授業は、国語で、物語文（宮沢賢治 作「オツベルと象」）を教材に、生徒が徹底した予習をし、ディスカッションをする授業である。

まず生徒は、教員の作った youtube の動画を見て、自宅で2時間程度の予習をした。そこで作った予習ノートをもとに、生徒たちが授業で高度なディスカッションを行なった。その結果獲得した読解を、帰宅後、ロイロノートスクールに書き込み、教員に提出した。提出された読解を次の授業で生徒が共有し、各生徒がさらに自分の読解を深めた。

それに加え、ディスカッションで特に活躍した生徒が授業後数名で集まり、代表としてより高度なディスカッションを行なった。そのディスカッションと教員の要点整理を youtube にアップした。全生徒がその動画を見て、参考にし、復習をした。定期テストの読解部分は、数百字程度の記述数問のみで行なった。

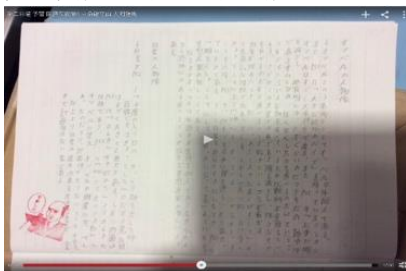


写真1 生徒の予習ノート



写真2 授業でのディスカッション



写真3 ロイロノート読解共有画面

### 3.2 ICT 活用の工夫

この授業では、現代文であるにも関わらず、生徒がなべて2時間もの予習をした。それを実現したのは、「読み深めカード」という、筆者が独自に考案した教具である。これは読解を深めるための観点が書かれたもので、その観点にしたがって生徒は自宅で考察を深め、ノートを作った。

その観点は例えば、「天候や事物に注目」や「登場人物の持ち物に注目」といったカードである。例えば物語世界の天候が不順であるとき、当時人物の心情も必ず不順である。登場人物が特殊な物を持っているとき、そこには必ず特殊な意味がある。この授業ではこのカードの特大版を黒板に貼り付け、単に一問一答をするのではなく、カードの観点にしたがって活発なディスカッションを行なうのである。

この「読み深めカード」は同じ内容で個人用の小さなものもある。それを生徒がトランプのようにくりながら、自分の考察の糸口をさぐる。したがって生徒全員にこのカードを配布する必要がある。しかし、薄い小さな紙であるこのカードは48枚もあり、生徒に配布してもかつては紛失するばかりであった。

そこで活用したのがロイロノートスクールである。この授業では「読み深めカード」をロイロノートスクール上に電子化し、生徒の iPad に一気に配布した。こうすれば、カードは決して無くならないし、しかも、ときにディスカッションをしながらカードをつなぎ、整理し直し、より考察を深めることができた。

また、そのカードでどう使えば予習が出来るかは、筆者が事前に youtube で解説した。本校は生徒全員が iPad を持ち、家庭での Wi-Fi 環境も整っているため、それぞれが自宅の学習機でその動画を見ながら予習が出来た。

さらに、授業でのディスカッションの後に、代表生徒による、より高度なディスカッションを行ない、それを youtube で配信し、教員が作った別の動画と合わせて、他の生徒の参考・復習に役立てた。

これらの工夫の結果、繰り返しになるが、定期テストの読解部分は、中学一年生であるにも関わらず、数百字程度の記述のみという、高度な問いで実施出来た。



写真4 「読み深めカード」

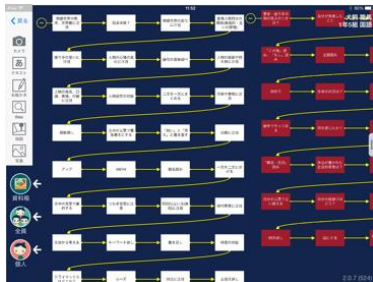


写真5 ロイロノートで配布



写真6 代表ディスカッション



写真7 教員補足動画

### 3. 3 実践の先進性と普及性

この授業では、教員の用意した予習動画、代表生徒のディスカッションをはじめとする参考・復習動画がyoutubeにアップされ、ラジオ番組のような機能を持ち、生徒の学習を強力に支えた。特に、代表生徒のディスカッションは、反転学習で授業に臨み、そこで得た内容を、生徒がもう一度他の生徒に返すという点で、反転学習からさらに回った、「回転学習」とでも呼ぶべきもので先進性を持つのではないかと。

また、それらを実現したのが、「読み深めカード」とそれを配布したロイロノートスクール、さらにそれを使うための、また、予習、参考・復習用の動画を観るための、iPadなのだが、これらは全て、多くの教員が簡単に使えるものばかりである。

したがって、この授業は「読み深めカード」「回転

学習」に代表される先進性と同時に、普及性も持つのではないだろうか。

## 4. 成果

実践の成果は、子どもたちの学習が受動的なものから、能動的なものに、劇的な変化を遂げたこと、また、互いの考察を真剣に学び合う、学びの協働体を作り上げたことである。

「従来の課題」でも述べたとおり、以前、生徒の自宅学習は漢字の練習か、語句の意味調べ程度のものであった。しかし、この授業では教材に対する何時間もの考察を経て、ほとんどの生徒が次々にその考察を発表したのである。生徒たちの手が激しく、まっすぐに挙がる様子は、さながら踊る林のようで、彼らが前夜、いかに真剣に考察してきたかが、窺い知れた。また彼らは、ディスカッションで知った友達の考察に感嘆して終わるのではなく、それを参考に自分の考察を修正し、真剣にノートに書き直し、さらに高度な考察へと向かっていったのである。

さらに、この授業では、youtubeを利用して、生徒たち自身が授業の発信者となった。同時に、生徒たち自身がその受信者ともなった。「スクールラジオ」とでも呼ぶべきこのyoutubeの番組群は、校内だけでなく、自宅においても強力な学びの協働体を構築した。

以下、授業アンケートの結果を一部紹介する。

「授業で読み深めカードがあるので、ノートに書きやすく分かりやすいと思いました。動画を出したり、ロイロノートで読み深めカードを送ってくれるので、予習と復習がやりやすいと思いました」「いつもありがとうございます。ロイロでみんなの考えが参考になるので、詳しくノートが書けます」「自分の考えと他の人の考えをロイロで比べられるので、とてもいいと思います。これからもよろしくお願いします」

## 5. 今後に向けて

文部科学省は平成27年1月16日に発表した「広大接続改革実行プラン」において、「重視する視点」として「『知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力』や主体性をもって多様な人々と協働する態度などの『真の学力』の育成・評価」を挙げている。

今回報告したディスカッションは、「読み深めカード」をきっかけに「自ら課題を発見」し、それを考察しノートに予習をすることで、「その解決に向けて探究し、成果等を表現」できているだろう。また授業で積極的に発言をし、友達の考察を参考に、さらに高度な考察に向かったことは、「多様な人々と協働」できたとも言える。しかし、それで彼らが見つけたはずの「真の学力」とは一体どのようなものなのだろうか。

彼らが力をつけたことを、授業者である私は全く疑ってはいないが、それを第三者に納得してもらうには、どうすればいいのだろうか。

と言うのは、不遜な言い方で赤面を禁じ得ないのだが、私は自分だけがこのような授業をやっていればよいとは思わないのである。できれば、仲間を見つけ、仲間とともにこのような授業に取り組む大きなうねりを作り出したい。

そのためには、彼らが「真の学力」をつけたのだと、まだ見ぬ仲間を説得する強い根拠が欲しいのである。今後の課題とする。